

## 平成22年度女性医師等相談窓口事業推進連絡協議会

日時：平成22年12月3日(金) 14:00～16:30

場所：日本医師会館

報告：常任理事 三倉 剛

挨拶

女性医師支援センター センター長 羽生田 俊  
厚生労働省医政局医事課長 村田 善則

議事

### 1. 都道府県医師会 事例発表

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| ① 福岡県医師会 佐藤薫理事          | ② 徳島県医師会 岡田博子常任理事 |
| ③ 山口県医師会 田村博子理事         | ④ 岡山県医師会 神崎寛子理事   |
| ⑤ 兵庫県医師会 渡辺弥生理事         | ⑥ 福井県医師会 富永八千代理事  |
| ⑦ 千葉県医師会 海村孝子理事         | ⑧ 茨城県医師会 諸岡信裕副会長  |
| ⑨ 青森県医師会 村岡真理女性医師活躍推進委員 |                   |

### 2. 質疑応答

#### 議事内容：

1. 各都道府県医師会（福岡，徳島，山口，岡山，兵庫，福井，千葉，茨城，青森）からの取り組み内容報告
2. 上記に関わる質疑応答
  - 1) 各県により取り組みに差がある。基本的事業内容は、医師紹介事業、育児支援、再就職支援・再教育事業の3つ。
  - 2) 先進県では厚労省認可の無料職業紹介所(ドクターバンク) を開設している(徳島，岡山など)。また育児支援が充実している県もある(山口県など)。再教育事業に力を入れている兵庫県など。
  - 3) アンケート実施などに留まって、まだ実績の少ない県(福岡，福井，千葉，茨城，青森) とに分かれている。
  - 4) 事業を実施する場合はドクターバンクと同様に県が予算をつけ、その委託を受けて、県医師会が運営する形をとっている。
  - 5) しかし、各県総じて、こうしたシステム作りは行われているが、女性医師側からのアプローチが少なく、労力の割りに実績が少ないのが実情である。広報不足という解釈もあるが、根本的には、勤務する女性医師を県医師会で把握して利用をすすめる構造自体に問題があるようである。というのは、女性医師がキャリアを中断し、再就職するのを妨げている要因は個々人で違い、一くくりに再教育・再就職とはいかず、個別に同僚や同門・同窓を頼っているのが実情だからである。そのように考えれば、県医師会としては、こうした事業には広く浅く関わるべきで、たとえば医療機関側の支援体制(保育体制，再教育体制，あるいは短時間正社員制など)の情報公開レベル等に留めるべきではないかと考察される。